

筑波サーキット攻略法 RS250R 編



最終コーナーは入り口と出口で2つのクリップを取る走り方。但し、入り口の1つ目のクリップはインをすこし開けながら入っていき(ハイク2台分)、2つ目のクリップに向かって減速を続ける。
最終コーナーはバーシャルでのコーナーリングを少なくし、2つ目クリップ手前までブレーキングの体制を維持することで理想的な立ち上がりラインにもっていく。
感覚としてはコーナーリングが無いような感じで走ると立ち上がってから1コーナーまでが伸びていく。
2つ目のクリップを通るときは右ひざがコースの内側に入るぐらいインに寄っていくと楽に立ち上がる事が出来る。

1コーナーの進入はちょうど登り始めてからブレーキングしていく感じ。
進入ラインはアウトから入っていくとインに寄せて行くのが難しいので少し早めにインに寄り、ダブルクリップで走るのが走り易い。
コーナーの真ん中あたりで少しはらみ、マシンの向きをかえ直線的に立ち上がる事でS字のスピードも速くなる。

DUNLOPコーナーの進入はエンジンが吹けるぐらいで進入すると気持ち良く走れる。パワーバンドで進入するとブレーキを強くかけなくてはならないのでわざと吹けさせる様なセッティングをする。
軽目のフロントブレーキを引きずりながら進入し、立ち上がりははらまずにシルコリンコーナーへアウトからアプローチ出来るようにする。
シルコリンコーナーへのつなぎではスロットルのON・OFFによってマシンのピッチングを利用し、より旋回性を引き出す工夫をする。

1ヘアピンを考慮し出来るだけ右側に寄っておく

スロットル全開ポイント

1ヘアピンはコーナーに大きなカントがついているのでコーナーリングスピードは気持ち速めでもOK。
但し予想以上に曲がっているのもしっかりと向きを変えながら立ち上がり、はらみすぎない事。
また、S字から2ヘアピンの区間はリズムにのって走らないとカットインなどのタイミングが取れず、タイムに結びつかないので注意。

2ヘアピンもカントがついているのでカントを利用した走り方をする。
進入ではあまり無理をせずにコーナーの真ん中ぐらいから入り、すこし奥でマシンの向きを変える。
立ち上がり部分が開いているコーナーなので徐々にスロットルを開けて行き、立ち上がり重視で立ち上がる。

